

中原養護学校 学校教育計画（平成28年度～平成31年度）

（１） 学校のミッション

肢体不自由教育部門・知的障害教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、一人ひとりの障害の状態に応じた就労の取組を促進し、小学部・中学部・高等部を通して、キャリア教育推進のための、一貫した教育を行う。医療ケア等を必要とするなど、多様な教育ニーズのある児童・生徒の、登下校を含む教育活動全般について、安全に実施する校内体制の整備をすすめ、個々の障害及び健康等の状況に併せた専門性の高い指導を実施する。加えて、多角的な視点による校内支援体制の充実を図り、児童・生徒が主体的に力を発揮できる授業実践の充実に取り組む。

また、共生社会の実現に向け、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流及び共同学習等を通じた、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との相互理解を図る。

（２） 学校教育目標

特別支援教育を推進する専門性と教育力を持ち、児童・生徒の生きる力を育む学校
～主体的に取り組む、明るく活気ある学校～

<目指す子ども像>

じょうぶに生きよう がんばろう
ゆたかに生きよう ほおえもう
なかよく生きよう はたらこう

自立と社会参加を目指し、共生社会を実現する学校
～地域と共に歩み、地域から信頼される学校～

（３） 計画策定時点での課題

肢体不自由教育部門の小・中・高等部の系統性と知的障害教育部門も含め高等部での発達段階に応じた一貫性について、キャリア教育の視点から教育課程や個別教育計画を見直すことが必要である。さらに、計画的に研究・研修に取り組みながら授業改善を行うことも課題である。

高等部で取り組んでいる進路学習・作業学習について、社会情勢等やキャリア教育の視点を踏まえて学習内容・方法を見直すことが必要である。

地域のセンター的機能として、小・中学校等への巡回相談や公開研修会を開催してきているが、インクルーシブ教育システムの推進に向けては、高等学校も含め各学校等が自ら支援できる力をつけるためのコンサルテーションの充実が求められる。また、相談・支援担当者のみならず、全教職員による学校全体としての地域支援の取組が求められる。

大震災を教訓に、防災教育の推進と福祉避難所としての体制整備や自治会・近隣施設との合同訓練の充実・改善に引き続き取り組む必要がある。

専門性の向上とインクルーシブ教育推進に向けた人材育成が求められる。

基礎的環境整備・合理的配慮の視点からも、安全でわかりやすい環境整備に取り組む必要がある。

(4) 4年間の目標と主な方策

| | 視点 | 4年間の目標 | 目標達成に向けた主な方策 |
|---|---------------|--|---|
| 1 | 教育課程 学習指導 | キャリア教育の推進を通して各学部の教育内容・方法を見直し、系統性・一貫性のある教育課程を編成し、授業改善に取り組む。 | 学校全体でキャリア教育について研究に取り組み、キャリア教育についての共通理解を図った上で、具体的な指導内容・方法について検討する。 キャリア教育の視点から授業研究に取り組みながら各学部での教育課程の見直しを進める。 |
| 2 | 児童生徒指導・ 支援 | 児童・生徒一人ひとりが健康で安全に、かつ、安心して教育活動に取り組めるよう専門性の高い指導を行うとともに校内指導体制を整備する。 | 個別の支援計画・個別教育計画を本人、保護者や校内外関係者と連携しながら作成し、実際の指導に生かせるよう改善に取り組む。 児童・生徒一人ひとりのニーズを的確に把握するために必要なアセスメントを校内外関係者と連携しながら実施するとともに、結果を保護者とも共有しながら様々なニーズのある児童・生徒へのきめ細かな生徒指導・支援を行う。 |
| 3 | 進路指導・支援 | 児童・生徒一人ひとりが卒業後に地域社会で自分らしく暮らせるよう、個々のライフキャリア・ワークキャリアを見据えた進路指導・支援を行う。 | 小学部段階から卒業後のアフターフォローのあり方までを見据えた学校としての進路指導・支援体制を見直し、再構築する。 高等部における進路学習・作業学習について、社会情勢等やキャリア教育の視点を踏まえて学習内容・方法を見直す。 |
| 4 | 地域等との協働 | 地域のセンター的機能の充実を図るとともに、地域との交流の機会を積極的に設定し、交流を深めることを通して共生社会の具現化に貢献する。 | 地域の幼・保・小・中・高等学校へのコンサルテーションの充実を図り、それぞれの学校力を高める。 地域の小・中・高・大学等との「交流及び共同学習」を積極的に進める。 |
| 5 | 学校管理 学校運営 | 専門性の高い人材の育成と保護者や地域から信頼・信用されるよう開かれた風通しの良い学校づくりを行う。 | 全教職員による授業研究の実施や各年次研修・異動者対象の研修、教職員のニーズや社会・世界的動向を踏まえた研修を計画的に行う。 いじめ・体罰の根絶、不祥事の未然防止、防災教育の充実に向け、保護者や地域と連携しながら研修やシステム作りに取り組む。 “Next40”プロジェクト（昨年度より本校で実施している学校改革の取組）を通して、全教職員で学校改善に向け絶えずアイデアを創出し、工夫しながら学校運営に取り組む。 |